DJ-P321 セットモードの拡張について

DJ-P321 特定小電力トランシーバーには、環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を「拡張セットモード」に採用しています。一度設定したら変えることが少なく、電池が早く減るなど「故障かな？」と思うような動作をしたりする項目もあるので、敢えて通常のセットモードの操作とは別にして、説明書にも記載していません。

内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、本書でも操作方法は敢えて最後に記載しました。増えた項目は、通常のセットモードメニューの後ろに続けて表示されます。

管理者が行った設定をユーザーが知らずにリセットするリスクを減らすため、これら拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、通常のリセット操作では初期化されないようになっています。

[拡張後に使えるセットモード項目]

１：スケルチレベル(SqL)
設定値 0～5（初期値 3）

ＦＭ電波特有の、通話が無いときに聞こえる「ザー音」（ホワイトノイズ）を消す「スケルチ」の調整です。生産時に標準的なレベルに調整してありますが、ノイズが強い環境などで、通話していない時にカサカサと音が出る場合にレベルを上げます。上げ過ぎると弱い信号も消してしまうため、通話距離が短くなったと感じられることがあります。逆にノイズが低い環境では、レベルを低めに設定することで弱めの信号でも受信しやすくなる場合があります。レベルをゼロにすると、常に「ザー」というノイズが聞こえるようになります。

メモ）グループトーク機能設定時はレベルをゼロにしてもホワイトノイズは聞こえません。

２：キーロックするまでの時間(LoC)
設定値 1～3 秒（初期値 2 秒）

指定のキーを 2 秒押すとキーロックが掛かりますが、このタイミングを 1～3 秒の間で変更できます。
メモ）キーロックは FUNC キー長押しの簡易と、FUNC と GROUP を押す２種類があります。

３：バッテリーセーブ(bS)
設定値　ON/OFF（初期値 ON）

電池消費を最小にするバッテリーセーブ機能は、僅かですが通話の始めの部分が途切れる原因の一つになります。これを少しでも軽減する必要がある特殊用途向けに設けた項目です。電池の消費が早くなるため、通常の用途では変更しないでください。

４：電池電圧表示（数字）
拡張後この項目に合わせると、お使いの電池のおよその電圧を数字表示します。電池が弱ってきたときの数字を覚えておけば、電池残量の詳しい目安になります。（テスターのような精度ではありません、あくまで目安の数値です。）

５：マイクゲイン調整(mG)
設定値 1～7（初期値 4）

通話時のくせ（声量、マイクと口の間の距離…）やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る声量は異なります。このため、音が小さい（話す声が小さい＝レベルを大きくする)、音が歪む（声が大きい＝レベルを小さくする）等の場合に調整できます。適当に設定するとかえって音が悪くなるので、しっかり通話テストをしてからお使いください。

６：デュアルオペレーション再開時間設定(dt)
設定値 1～5（初期値 5 秒）

デュアルオペレーション（ＤＯ）モードで通話が終了したあと、交互受信（スキャン）が再開するまでの時間です。初期値は 5 秒ですが、運用の仕方によっては早い方が便利な時もあります。ニーズに合わせて変更してください。

７：4極オプション使用時の本体PTT・本体マイク設定(Pt)
設定値 OFF／OUT／ALL（初期値ALL）

4極１軸ねじ込み式のマイク類オプション（イヤホン・スピーカーマイク等）を接続して使用する際に、本体のPTTと内蔵マイクの有効／無効を設定できます。使用状態に合わせて変更してください。

OFF　：本体PTT無効・本体マイク無効（オプションマイクのPTTと外部マイクのみ有効）
OUT　：本体PTT有効・本体マイク無効（外部マイクのみ有効、PTTは両方有効）
ALL　：本体PTT有効・本体マイク有効（オプションマイクのPTTと外部マイクも有効ですが、この設定は４極１軸ねじ込み式のイヤホンをお使いになる時のものです）

※ “OUT”“ALL”でスピーカーマイクを使うとき、本体PTTを押してもスピーカーマイクから声を送信することはできません。スピーカーマイクのPTTを押して送信してください。

８：緊急通報時間設定(Emt)
設定値 10～60（初期値10秒）

緊急通報のアラーム鳴動時間と送信時間は10秒に初期設定されていますが、10秒単位（最大60秒）で長くできます。

９：秘話通信周波数(SCF)
設定値 27～34（初期値34：3.4KHｚ）

秘話設定のコード（正確には周波数ですが）を変えて、秘話グループ分けして使えます。変更するときは、通話したいグループ全員の設定を同じに揃えてください。

１０：秘話エンファシス(EmP)
設定値　ON/OFF（初期値ON）

弊社製、他社製に限らず特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えると改善される場合があります。

１１：減電池アラーム設定(btC)
設定値 OFF／5～60秒（初期値OFF）

電池の電圧が低下するとディスプレイ右上の電池マークが点滅し、減電池をお知らせします。このとき設定時間ごとに1回、電池が減っていることをアラーム音でもお知らせできます。音を鳴らす電力が消費されるため、間隔を短く設定するほど早く電池が切れます。

１２：グループ種類切り替え設定(Gr)
設定値 ton／Cd1／Cd2（初期値ton）

本機のグループトークは一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えをCd1、Cd2に設定し、通常のトーンスケルチと同様に通常画面でGROUPキーを押すことでDCSを設定することができます。グループ番号を変更する場合はトーンスケルチと同様にFUNCキーを押しながら▲、▼キーで変更することができます。Cd1、Cd2設定によって変更できるグループのコード数と表示を選択することができます。

Cd1：01～83の83通りのコード番号から選択（待ち受け時「_○○」とコード番号が表示）
Cd2：Cd017～Cd754の108通りのコードから選択
（待ち受け時「_Cd」と表示され、変更時に「Cd_○○○」とコードが表示）

１３：VOX送信持続時間設定(vot)
設定値 01～30（初期値10：1.0秒）

VOXで送信したとき、音声が途切れても初期値では1秒間、送信状態を保持するので短い息継ぎしても途切れません。この時間を0.1秒～3.0秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、黙るとすぐ送信が落ちることもあり、十分に動作確認をしてからお使いくだ

さい。

１４：チャンネル表示設定(CH)
設定値 noL／SP／OFF（初期値 noL）

弊社製品のチャンネル表示は L01〜L09、b01〜b11 です。チャンネル表示設定を SP に変更することで 01〜20 表示に変更することができます。他社製で、これに近い表示をしている機種のチャンネルに合わせやすくします。

noL	SP
b01〜b11	01〜11
L01〜L09	12〜20
b12〜b29（中継）	01〜18（中継）
L10〜L18（中継）	19〜27（中継）

OFF を選ぶとチャンネルを非表示（－－－－－－）にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。再設定する場合はチャンネル表示を noL または SP にしてください。

１５：音量設定(EvoL)
設定値 L／H（初期値 L）

本体スピーカーとオプションスピーカーの音声出力（音量）をさらに大きくすることができます。
Ｈでは最大音量にすると少し歪むこと、イヤホンで使うと大きな音が出て耳を痛める原因になること、電池の消費が早まることなどから、初期状態ではＬにしています。Ｈに設定すると、電源スイッチを入れたとき「P321」の後に「EvoL-H」と表示されます。

１６：グループトーク判別精度(tn)
設定値 1〜5（初期値 2）

他社製や弊社製の旧型機と混用すると、グループトークができないことあります。最新の部品を採用する本機の信号読み取り精度が非常にシビアで、少しでも外れると読み取ってくれない「相性問題」です。この設定をする前に、グループ番号を相性問題が起きにくい 10 番〜37 番の間に変えてお試しください。それでも上手くいかないときに、判定精度をわざと甘くするこの項目をお試しください。1 が最も厳しく、5 が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、テールノイズキャンセル機能も働かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の 2 は、かなりシビアに判定します。

１７：サブ PTT キーの機能割り当て（SPt）
設定値 Pt／CH／EG／oP／v0（初期値 Pt）

本機の PTT キー下にある「サブ PTT キー」は、初期状態ではデュアルオペレーション（ＤＯ）のサブ側チャンネル送信 PTT に割り当てられていますが、次の機能に変更することができます。

Pt ：サブ PTT
ＤＯのときのサブ側チャンネル送信機能です。普通の通話モードでは、大きい方の PTT キーと同じ動作をします。

【以下のいずれかを選択した後で DO する時、サブ側送信するにはメイン PTT キーを２回押しします。】

CH ：サブ側チャンネル切り替え
3 秒間押し続けるとメイン側とサブ側に設定したチャンネルを入れ替えできます。ＤＯのサブ側チャンネル登録操作で、「２番目によく使うチャンネルと設定」を登録しておけば、普通の交互や交互通話中継時に素早く切り替えられます。いわば「コールチャンネル（よく使うチャンネルへのショートカット）」機能です。

【ご注意：デュアルオペレーション中は、サブ側チャンネルへの切り替えはできません。DO モードにするとサブ PTT を押しても何も反応しませんが、故障ではありません。】

EG ：緊急通報
3 秒間押し続けると緊急通報音が鳴り、同じチャンネルの受信側にも緊急通報音が鳴ります。（通常設定の緊急通報機能と同じ）

oP ：モニター
押すことでスケルチが無効になり、「ザー」というノイズが聞こえるようになります。もう一度押すことで元に戻ります。（項目２１のモニターキー操作と同じ。下記２１も合わせてよくお読みください。）

v0 ：ミュート **※従来からのミュートで、弊社の自動解除機能が付く「受信音ミュート」ではありません。**
押すと受信音が一時的に最小になります。何かキーを押すか、送信すると解除されます。
自動では解除されないのでご注意ください。

１８：受信音ミュートディレイタイム(r-mudt)
設定値 1～5（初期値 3）

受信音ミュートのミュート保持時間を変更できます。ミュート解除忘れを防ぐための時間設定で、設定時間が過ぎると自動的に解除されます。用途に合わせてカスタマイズしてください。

1 → 5 秒、　2 → 10 秒、　3 → 15 秒、　4 → 30 秒、　5 → 60 秒

１９：テールノイズキャンセル設定(tC)
設定値 OFF／ON（初期値 ON）

グループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信から待ち受けになるときの「ザ！」という短いノイズ音）を除去する「テールノイズキャンセル機能」のオンオフです。テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方が有効なときのみ動作するので、この機能が入っていない無線機と通話すると設定にかかわらずテールノイズは聞こえてしまいます。

２０：減電池スリープ(btS)
設定値 OFF／ON（初期値 ON）

スイッチを切り忘れるなどで過放電させると、バッテリーパックや乾電池の劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐため電池の電圧が一定レベルまで低下すると、初期値の ON では自動的に電源を切ります。OFF にすると電池を最後まで使い切ることができますが、大きな差はありません。特殊な理由が無ければ ON でお使いください。いずれの設定でも待機電流は発生するので、長期間使わないときは、バッテリーパックは取りだして涼しい乾いた直射日光が当たらない場所に、無線機本体と一緒に保管してください。

２１：モニターキー操作(mKy)
設定値 OFF／ON／Hd（初期値 OFF）

▲、▼キーを同時に押すとスケルチが開き「ザー」というノイズが聞こえます。スケルチに埋もれるような弱い信号をどうしても受信したいときに使うもので、通常は誤操作を防ぐため OFF（無効）にしています。
この設定を ON にすると▲、▼キーを同時に押している間だけ「ザー」というノイズが聞こえ、放すと元に戻ります。また、この設定を Hd にすると、1 回同時押しすると「ザー」というノイズが聞こえ、もう一度同時押しすると元に戻ります。

注）▲、▼キーを誤操作すると急に「ザー」というノイズ音が鳴るため、音量設定には十分注意してください。
業務連絡用途では使う必要が無い機能です。

[セットモード拡張方法]
1：キーロックを掛けます。（2 つあるうちの、どちらの方法でも構いません。）
2：GROUP キーを 5 回連続で押します。10 秒以内に 5 回押さないと有効になりません。
キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープ音が鳴ります。
3：自動的にキーロックが解除されます。
4：セットモードに入ると上記のメニューが追加されています。
＊ 変更した値を保存して拡張メニューを隠すには、上記 1～4 の操作を繰り返します。

[拡張項目のリセット]
＊ チャンネルや通常のセットモードも含んで、全てを工場出荷状態まで初期化するには電源を切った後フロントパネル上の▼、▲、FUNC キーの 3 つ全てを押したままで電源を入れ、画面が全点灯したら指を放します。ＬＯ１で起動したら工場出荷状態です。
＊ 説明書に記載のリセット（ＦＵＮＣキーを押しながら電源を入れる）では拡張セットモードは閉じず、設定した値も初期化されません。拡張セットモード以外の設定だけが工場出荷状態に戻ります。

以上

アルインコ（株）電子事業部